

鳴之庵歴代庵主の句

鳴たつてなきものを何よぶことり

一世 大波三千風 おおなみぞみちかぜ

ちり塚にもろしや花の葉大根

二世 朱人 しゆじん

大鷲や波によせたる雪の船

三世 白井鳥酔 しらいちょうすい

西東啼へき夜也ほどとぎす

四世 杉坂百明 すぎさかひやくめい

吹つくし後は草根に秋のかせ

五世 加舎白雄 かやしらお

雨すぎて夜さむのからす啼にけり

六世 西奴 せいぬ

夜をひと夜おもへハなかし松の霜

七世 三浦紫居 みうらしおり

(鳴之庵庭内墓碑に句は刺まらず)

八世 倉田萬三 くらたかつさん

心ほど世は経かたくも散櫻

九世 遠藤雉塚 えんどうちたく

月まどかりと独寝ぬ夜哉

十世 鳥田五宇 しまだりつう

行さきは人まかせなり更衣

十一世 大澤寿道 おおさわじゆどう

葉一枚落るかせより秋の鐘

十二世 菅喜田松頂 すがきだしょうちよう

明行や桜はさくら月ハつき

十三世 間宮宇山 まみやうざん

大鳥ハいつのとなりよ今日の月

十四世 二宮松汀 にのみやしやうてい

俯向て澤の音さく時雨かな

十五世 原 昔人 はら せきじん

龍神のあゆむ跡よりもゆる草

十六世 高瀬蘇速 たかせそめい

山に来て落葉ふむことあたたかき

十七世 神林時起人 かんばやしじしじん

春の滝さゝら波して遠からす

十八世 鈴木芳如 すずきはうじよ

大磯の波もとゝろと今日の月

十九世 山路閑古 やまじかんこ

花の下は花の風吹き西行忌

二十世 村山故郷 むらやまこきやう

大磯に一庵のあり西行忌

二十一世 草間時彦 くさまときひこ

円位忌の波の意限を見てをりぬ

二十二世 鍵和田柚子 かぎわだゆうこ